

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：43807

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350934

研究課題名(和文) 養育者のオーラルヘルスリテラシーが3歳児の口腔健康に与える影響についての横断研究

研究課題名(英文) Association between Caregivers' Oral Health Literacy and Children's Oral Health

研究代表者

野口 有紀 (Noguchi, Yuki)

静岡県立大学短期大学部・その他部局等・准教授

研究者番号：30612618

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：母親のオーラルヘルスリテラシーは、3歳児の子どもの口腔健康状態に関連しているか調査を実施した。

親のオーラルヘルスリテラシーは、母親の社会的経済地位(SES)、母親自身の口腔保健行動および子どもへの口腔保健行動と関連していたことが示された。母親のオーラルヘルスリテラシーは3歳児の口腔健康に影響を与える可能性があることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study was to investigate how caregivers' oral health literacy (OHL) and their health behaviors are related to the oral health status of their 3-year-old children in Japan.

This survey indicated that the OHL of female caregivers was associated with their SES, oral health and children's oral health. The survey also suggested that caregivers' OHL could influence their children's oral health.

In conclusion, caregivers' OHL can have some impact on the oral health outcomes of their children.

研究分野：公衆衛生

キーワード：オーラルヘルスリテラシー 養育者 幼児 口腔健康状態 3歳児歯科健康診査

1. 研究開始当初の背景

ヘルリテラシーは、健康増進を図るうえで、比較的新しい概念である。WHO におけるヘルスリテラシーの定義は、『健康を促進・維持するために情報にアクセスし、理解し、活用する能力を決定づける認知的・社会的スキル』としている。

2000年にNutbeamはヘルスリテラシーを以下の通りに提唱した。機能的ヘルスリテラシー：日常生活場面で効果的に機能するための読み書きの基本的なスキル、伝達のヘルスリテラシー：日常生活場面で情報を入手し環境へ適用するために利用するスキル、批判的ヘルスリテラシー：情報を批判的に分析し環境や状況により吟味し適用するスキル、と3つを総合的にとらえたものをヘルスリテラシーとしている。Healthy People2010では、初めてヘルスリテラシーの向上を掲げ、健康格差を解消するために重要であると指摘しており、近年ヘルスリテラシーが注目を浴びている。

ヘルスリテラシーが健康に及ぼす影響は、ヘルスリテラシーが高いほど、健康的な行動習慣があり、予防的な保健医療サービスを利用する機会が多く、健康の改善に寄与することが報告されている。また、養育者のヘルスリテラシーが低い場合、子どもの健康に悪影響をもたらすことも報告されている。先行研究では、わが国とは環境の違う海外での研究が非常に多く、養育者と幼児を調査対象とした口腔に関わる総合的なヘルスリテラシーの研究は少ない。

2. 研究の目的

3歳児および養育者を対象に、養育者のオーラルヘルスリテラシーが3歳児の口腔健康に影響を及ぼしているかについて検証を行った。

3. 研究の方法

調査協力の得られたS県H市で横断研究を実施した。対象者は3歳児を持つ母親とその子ども469組に対し調査を行った。

母親への調査は、自己記入式質問紙調査で実施した。質問項目は、オーラルヘルスリテラシー、社会的経済地位（SES）、主観的口腔健康感、口腔保健行動と子どもに対する口腔保健行動を用いた。オーラルヘルスリテラシーは11項目で構成され（機能的、伝達の、批判的領域）4段階のリッカート尺度によって合計点で算出した。

3歳児への口腔診査は、口腔診査の訓練を受けた歯科医師1名によって行われた。

分析は、記述統計実施後、 χ^2 検定を実施した。

4. 研究成果

1) オーラルヘルスリテラシー（表1）

3歳児を持つ母親のオーラルヘルスリテラシーの総合計点は、29.91点であった。基本

的オーラルヘルスリテラシーの平均点は2.65点、伝達のオーラルヘルスリテラシーの平均点は2.69点、批判的オーラルヘルスリテラシーの平均点は2.77点であった。

伝達のオーラルヘルスリテラシーの質問項目では、「得られた情報を理解できた」項目の平均点が高かった。批判的オーラルヘルスリテラシーの項目では、「得られた情報が自分も当てはまるか考えた」、「選び出した情報から自分自身の方針を決めた」項目の平均点が高かった。一方、伝達のオーラルヘルスリテラシーの質問項目では、「いろいろなところから情報を集めた」、「得られた情報を誰かに伝えた」項目の平均点が低かった。批判的オーラルヘルスリテラシーの項目では、「得られた情報が正しいかどうか調べたりした」項目の平均点が低かった。

表1 オーラルヘルスリテラシーの平均スコア

n=464		
基本的オーラルヘルスリテラシー		
健康の情報が掲載されているものを読むとき...	平均	SD
知らない言葉がある	2.61	0.69
内容がとても難しい	2.74	0.65
合計（8点）	5.35	1.26
伝達のオーラルヘルスリテラシー		
歯やお口の健康に関することについて...	MEAN	SD
いろいろなところから情報を集めた	2.49	0.68
自分の求める情報を選び出した	2.64	0.66
得られた情報を理解できた	3.08	0.66
得られた情報を誰かに伝えた	2.46	0.73
自分の生活習慣を変えてみた	2.79	0.64
合計（20点）	13.46	3.37
批判的オーラルヘルスリテラシー		
歯やお口の健康に関することについて...	MEAN	SD
得られた情報が自分にも当てはまるか考えた	2.96	0.66
得られた情報の信頼性を考えた	2.79	0.69
得られた情報が正しいかどうか調べたりした	2.48	0.81
選び出した情報から自分自身の方針を決めた	2.86	0.79
合計（16点）	11.08	2.95
オーラルヘルスリテラシー総合計（44点）	29.91	4.64

* OHL : ISHIKAWA (2008) を改変し使用

2) 母親とオーラルヘルスリテラシーの関連（表2）

低いオーラルヘルスリテラシーに比べ、高いオーラルヘルスリテラシーを持っている方が母親自身の教育歴が専門学校および短大卒業以上、主観的暮らしぶりの評価が良い、世帯収入が600万円以上の割合が有意に高かった。

主観的健康感および主観的口腔健康感について、低いオーラルヘルスリテラシーと高いオーラルヘルスリテラシーでは有意な差は見られなかった。しかし、高いオーラルヘルスリテラシーを持っている方が良い割合が高かった。

口腔保健行動では、高いオーラルヘルスリテラシーを持っている方が、歯間清掃用具の使用をしている、かかりつけ歯科医がいる割

合が有意に高かった。1日の歯磨き回数、定期的な歯科検診について、低いオーラルヘルスリテラシーと高いオーラルヘルスリテラシーでは、有意な差は見られなかった。しかし、高いオーラルヘルスリテラシーを持っている方が良い保健行動をとっている割合が高かった。

表2 オーラルヘルスリテラシーとの関連

	オーラルヘルスリテラシー		P 値
	OHL スコア 30点以下 (%)	OHL スコア 31点以上 (%)	
教育歴			
高校卒業以下	37.0%	28.3%	> 0.001
専門・短大卒業以上	63.0%	71.7%	
主観的暮らしぶり			
悪い	45.4%	33.9%	0.016
良い	54.6%	66.1%	
世帯収入			
600万円未満	70.2%	58.1%	0.011
600万円以上	29.8%	41.9%	
生活の満足			
満足していない	14.3%	12.2%	0.577
満足している	85.7%	87.8%	
生きがい			
ない	9.8%	7.2%	0.042
ある	90.2%	92.8%	
主観的な全身健康感			
悪い	3.9%	2.7%	0.601
良い	96.1%	97.3%	
主観的口腔健康間			
悪い	25.9%	19.9%	0.145
良い	74.1%	80.1%	
1日の歯磨き回数			
1回以下	9.7%	6.4%	0.433
2回	55.3%	56.4%	
3回以上	35.0%	37.2%	
歯間清掃補助用具の使用			
なし	54.0%	36.2%	> 0.001
あり	46.0%	63.8%	
かかりつけ医			
持っていない	33.8%	24.3%	0.030
持っている	66.2%	75.7%	
定期的な歯科検診			
していない	66.4%	59.5%	0.143
している	33.6%	40.5%	
現在の喫煙状況			
喫煙している	4.8%	3.2%	0.472
喫煙していない	95.2%	96.8%	

χ² test

3) 母親のオーラルヘルスリテラシーと3歳児の口腔健康状況(表3)

3歳児の間食状況では、母親の低いオーラルヘルスリテラシーに比べ、高いオーラルヘルスリテラシーを持っている方が、甘いお菓子を毎日の摂取しない割合が有意に高かった。1日の間食回数、甘い飲み物の毎日の摂取について、有意な差は見られなかったが、高いオーラルヘルスリテラシーを持っている方が少ない割合が高かった。

3歳児に対する口腔保健行動では、仕上げ磨き、1日の歯磨き回数、歯磨き剤の使用、フッ化物の定期的塗布について、有意な差は見られなかったが、高いオーラルヘルスリテラシーを持っている方が良い口腔保健行動

をとっている割合が高かった。

3歳児の乳歯齲蝕経験歯数では、有意な差は見られなかったが、高いオーラルヘルスリテラシーを持っている方が、齲蝕経験歯0本者の割合が高かった。

表3 母親のオーラルヘルスリテラシーと3歳児との関連

	オーラルヘルスリテラシー		P 値
	OHL スコア 30点以下 (%)	OHL スコア 31点以上 (%)	
1日の間食回数			
3回以上	15.8%	12.7%	0.418
2回以下	84.2%	87.3%	
甘いお菓子を毎日食べる習慣			
ある	71.4%	61.3%	0.028
ない	28.6%	38.7%	
甘い飲み物を毎日飲む習慣			
ある	31.1%	23.4%	0.073
ない	68.9%	76.6%	
仕上げ磨き			
していない	2.2%	1.8%	1.000
している	97.8%	98.2%	
1日の歯磨き回数			
1回以下	35.8%	32.0%	0.619
2回	54.0%	55.8%	
3回以上	10.2%	12.2%	
歯磨き剤使用			
使用していない	14.5%	9.0%	0.081
使用している	85.5%	91.0%	
フッ化物の定期的塗布			
していない	46.5%	39.2%	0.128
している	53.5%	60.8%	
齲蝕経験歯数			
1本以上	6.6%	4.8%	0.529
0本	93.4%	95.2%	

χ² test

本調査より、母親のオーラルヘルスリテラシーは、母親の社会的経済地位 (SES)、母親自身の口腔保健行動および子どもへの口腔保健行動と関連していたことが示された。母親のオーラルヘルスリテラシーは3歳児の口腔健康に影響を与える可能性があることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0件)

[学会発表](計 3件)

Yuki Noguchi, Akira Ishikawa. Association between Caregivers' Oral Health Literacy and Children's Oral Health. 93rd General & Exhibition IADR, 3.14.2015, Boston, MASS, USA

野口有紀、石川昭、かかりつけ歯科医を持つ母親と3歳児に対する口腔保健行動との関連. 第10回日本歯科衛生学会学術大会、2015年9月21日~9月22日、北海道札幌市

野口有紀、石川昭、母親のメディア健康情報
の取得と子どもへの口腔保健行動の関連 .
第 74 回公衆衛生学会、2015 年 11 月 5 日、長
崎県長崎市

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野口有紀 (NOGUCHI Yuki)
静岡県立大学短期大学部・歯科衛生学科・
准教授
研究者番号：30612618

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

坂井博通 (SAKAI Hiromichi)
埼玉県立大学保健医療福祉学部・健康開発
科・教授
研究者番号：60249191

若林子ヒロ (WAKABAYASHI Chihiro)
埼玉県立大学保健医療福祉学部・健康開発
科・准教授
研究者番号：40315718